

中央会ニュース

(1) 中央会の動き

- ・4月7日 埼玉県支部より古平渉 専務理事が就任のあいさつで来訪。同支部の田澤事務局長、飯田総務部長が同行し、本会中野専務理事、下村理事・事務局長が対応。
- ・4月14日 本会会議室において情報統計研修専門委員会 杉坂委員長と山梨県甲府市で開催する令和8年度第43回全国情報統計研修会の開催内容を協議。本会から中野専務理事、下村理事・事務局長、玉沖企画部参事が出席。
- ・4月15日 本会会議室において一般財団法人日本宝くじ協会による宝くじ助成事業での令和8年度検診車整備事業の説明会を実施。岩手県支部より木村事業推進部次長、峠事業推進部健診企画室係長、千葉県支部より近藤事務局調整監兼情報管理部長、鈴木総務部経理課長が出席し、本会から中野専務理事、下村理事・事務局長、宮本事業部長が出席。
- ・4月21日 栃木県支部より萩原英樹 理事長が就任のあいさつで来訪。同支部の渡邊管理部長、川村総務課長が同行し、本会中野専務理事、下村理事・事務局長が対応。
- ・4月22日 公益社団法人全国労働衛生団体連合会（以下、全衛連）が開催の「小規模事業場ストレスチェック制度実施マニュアル説明会」（Web開催）に中野専務理事が参加。
- ・4月28日 本会会議室においてシスメックス株式会社加賀部長、宮崎課長と令和8年度精度管理認証事業を協議。本会から中野専務理事、白河技術アドバイザーが出席。
- ・5月8日 本会会議室において令和8年度第1回情報統計専門委員会を開催。杉坂委員長（神奈川県支部）、上村委員（東京都支部）、木村委員（神奈川県支部）、加藤委員（石川県支部）、九谷委員（高知県支部）、岩井次長（東京都支部）、本会から中野専務理事、下村理事・事務局長、玉沖企画部参事が出席し、令和8年度第43回全国情報統計研修会の開催内容を協議。（一部Web開催）
- ・5月12日 本会会議室において令和7年度財務諸表の事前監査を、鈴木公認会計士、樋口公認会計士により実施。本会から中野専務理事、下村理事・事務局長、澁澤管理アドバイザー、吉田総務部主事が出席。
- ・5月14日 本会会議室において令和8年度第1回常任企画委員会を開催し、令和8年度第1回企画委員会の開催方法等、第1回全国運営会議他について協議。北見委員長（神奈川県支部）、前田委員（東京都支部）、金澤委員（茨城県支部）、金地委員（石川県支部）、本会 中野専務理事、下村理事・事務局長が出席（一部Web開催）。
- ・5月15日 全衛連が開催の「女性問診に係る説明会」（Web開催）に中野専務理事が参加。
- ・5月18日 8月27日、28日に山梨県甲府市「ベルクラシック甲府」にて開催する令和8年度第43回全国情報統計研修会についてWeb協議。山梨県支部から河西総務部総務企画課課長補佐他3名と本会から中野専務理事、下村理事・事務局長、玉沖企画部参事が出席。
- ・5月19日 本会会議室において本会小海監事、中村監事による令和7年度の監事監査が行われ、本会から中野専務理事、下村理事・事務局長、澁澤管理アドバイザー、吉田総務部主事が出席。
- ・5月20日 栃木県支部において日本宝くじ協会のカレンダー作成のため、令和7年度宝くじ助成事業対象の乳房デジタルX線検診車の撮影に、本会から宮本事業部長が立会。
- ・5月22日 令和8年度全国予防医学技術研究会優秀賞（第48回児玉賞）審査委員会を開催。東條委員長、久布白委員、坂田委員、櫻林委員、清水委員、津久井委員が出席し審議。
- ・5月22日 本会会議室において本会の令和8年度第1回業務執行理事会を開催し、令和8年度第1回理事会提出議案等を審議。櫻林理事長、中野専務理事、久布白常務理事、根本常務理事（Zoom参加）、下村理事・事務局長が出席。
- ・5月25日 本会会議室において広島県支部と令和8年度第71回予

防医学事業推進全国大会の打ち合わせをZoomにて開催。広島県支部から大岡健康科学センター長他3名の職員が出席し、本会から中野専務理事、下村理事・事務局長、吉田総務部主事が出席。

・5月29日 本会会議室において令和8年度宝くじ助成事業検診車の機種選定委員会を、岩手県支部、千葉県支部と開催。（岩手県支部はZoomでの開催）岩手県支部から城内事務局次長、笠原事業推進部長、木村事業推進部次長、久保田医療技術部放射線課課長補佐、峠事業推進部健診企画室係長が出席。千葉県支部から近藤事務局調整監、鈴木総務部経理課長、金子画像診断部集検放射線課長が出席。本会から中野専務理事、下村理事・事務局長、宮本事業部長が出席。

・6月5日 保健会館5階セミナールームにおいて本会令和8年度第1回理事会を開催し、令和7年度事業報告、令和7年度決算報告等の議案を審議・可決。

(2) 主な行事予定

- ・令和8年度 第1回全国運営会議 7月15日(水) 13時30分～
東京都新宿区「ホテルグランドヒル市ヶ谷」
- ・令和8年度 第43回全国情報統計研修会 8月27日(木)、28日(金)
山梨県甲府市「ベルクラシック甲府」
- ・令和8年度 第2回全国運営会議 10月29日(木)
広島県広島市「ホテルグランヴィア広島」
- ・令和8年度 第71回予防医学事業推進全国大会 10月30日(金)
広島県広島市「ホテルグランヴィア広島」
- ・令和8年度 技術運営会議 令和9年2月24日(水)
「栃木県総合文化センター」
- ・令和8年度 第60回全国予防医学技術研究会
令和9年2月25日(木)、26日(金)
「栃木県総合文化センター」

(3) 賛助会員お知らせ

本会の活動を支援していただける法人と個人を賛助会員として募集しています。

年会費は、法人会員100,000円、個人会員3,000円です。

詳細は、ホームページをご覧ください。

(4) 令和8年度全国予防医学技術研究会優秀賞（第48回児玉賞）受賞者決定について

以下の3名の方々が受賞しました。

一般財団法人 宮城県予防医学協会
健診部 眞鍋 香奈 氏
演題名「健診時初回面接の効果の検証」

一般財団法人 石川県予防医学協会
健康増進部 診療放射線グループ 中森 友美 氏
演題名「マンモグラフィ装置の精度管理について」

公益財団法人 山口県予防保健協会
保健部 臨床検査グループ 亀山 恵子 氏
演題名「山口県における拡大新生児スクリーニングの実施状況」

(5) 新ホームページ開設について

中央会では、本年4月から新しいホームページを開設し、支部会員ページ、賛助会員ページを設けるとともに、内容の充実に努めております。

QRコードからホームページに
アクセスできます。



予防医学ジャーナル

Journal

of Preventive Medicine

No.
546

令和8年7月号

CONTENTS

【TOPICS】

- ・「令和7年度宝くじ助成検診車」
島根県支部、栃木県支部へ配車
- ・令和7年度生化学研修会を開催
- ・令和7年度全国業務研修会を開催
- ・令和7年度保健指導研修会を開催
- ・第59回全国予防医学技術研究会を開催

【連載】～病と癒しの人間史～

WHO エボラ出血熱
「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態」を宣言
白鷗大学教授 岡田晴恵

【中央会ニュース】

- ・中央会の動き
- ・主な行事予定
- ・賛助会員お知らせ
- ・新ホームページ開設



公益財団法人
予防医学事業中央会
理事長 櫻林 郁之介

「予防医学ジャーナル」のリニューアルに寄せて

予防医学事業中央会では、本年7月に発行する「予防医学ジャーナル No.546」を大幅にリニューアルし、A4版、カラー化したうえで内容も本会活動の記事を重点といたしました。

また、従来は有料で販売をしていましたが、今号より支部会員、団体賛助会員、個人賛助会員に無料で配布することといたしました。

本会は、今年12月には、創立60周年を迎えることから、より一層国民の疾病予防と健康増進のために活動してまいりますので、支部の皆様と賛助会員の皆様のご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

公益財団法人 予防医学事業中央会
JAHS JAPAN ASSOCIATION OF HEALTH SERVICE





日本宝くじ協会助成による胃部デジタルX線検診車を島根県支部に、
乳房デジタルX線検診車を栃木県支部に納車・配車

本会では、一般財団法人日本宝くじ協会（山口一久理事長）が令和7年度に行う「公益法人助成事業（社会貢献広報事業）への助成」の助成金（胃部デジタルX線検診車：島根県支部 税別7,000万円、乳房デジタルX線検診車：栃木県支部 税別6,068万円）を受けて整備していた検診車が完成し、島根県支部では2月4日（木）に、栃木県支部では2月27日（金）に、納車・配車の式典、お披露目を行いました。

島根県支部

島根県支部（公益財団法人島根県環境保健公社）に配車された検診車には、最新鋭のX線撮影機器にフラットパネルディスプレイを搭載し、鮮明度の高い画像が得られることで、より精度の高い胃がん検診を実施することができます。また、検診車の床下に余熱式温水ヒーターを取り付けて、検

診車を温める寒冷地ならではの装備が装着されています。島根県は東西に細く伸び、その多くを中山間地域で占められています。この検診車の配備により、島根県の中山間地域や離島地域の住民に対する巡回検診の継続、強化が可能となります。胃がん検診の受診機会が広く提供され、島根県民の胃がん検診の受診率が向上し、ひいては胃がんの早期発見に大きく貢献することが期待されます。



栃木県支部

栃木県支部（公益財団法人栃木県保健衛生事業団）に配車された検診車には、直接変換方式のフラットパネルディテクターとX線装置メーカー独自の画像処理技術を組み合わせ、読影しやすい高画質の画像が得られ、診断の精度が大きく向上されることが期待されます。

また、この検診車には、痛みやストレスを抑えるための最新の技術と工夫を備え、検診スタッフからの指示をイラストや画像、多言語で対応する「e-検査ナビシステム」を採用し、感染症対策としてオゾンの働きにより空気中の浮遊ウイルスの動きを抑制する装置を搭載しました。これらにより、検診受診者の快適性、耳の不自由な高齢者、聴覚障害者、多国籍の方々など全ての検診受診者が安心・安全に受診できるような検診車となっております。この検診車を活用し、さらなる検診機会の確保により検診受診率の向上に寄与し、乳がんの早期発見・早期治療による栃木県民の健康寿命の延伸へと結びつき、QOLの向上などが期待されます。



島根県支部・栃木県支部 検診車内部の撮影装置



島根県支部 胃部デジタルX線撮影装置



栃木県支部 乳房デジタルX線撮影装置



令和7年度 生化学研修会を開催



本会は、令和8年1月29日(木)、30日(金)に、東京都新宿区市谷砂土原町「保健会館別館」において、令和7年度生化学研修会を開催しました。

同研修会には、本会の14支部18名が参加し、4名の中央会精度管理認証事業専門委員の協力のもと1日目は本会が精度管理認証事業に使用するシスメックス社の「XQC」の仕組みについての説明、血液・免疫・生化学検査等のピットホールに関するセミナーを行い、2日目は本会技術委員長の東條尚子先生による「健診業務での検体検査室における臨床検査技師の役割」と題しての教育講演と、精度管理認証事業専門委員の中臺有紀委員(千葉県支部)、川澄幸一委員(茨城県支部)が、「人材育成への取組」を講義した後、4グループに分かれての討論と全体討論が行われました。

生化学研修会に参加された方々からの感想を寄稿いただきましたので、ご紹介いたします。

公益財団法人 静岡県予防医学協会 藤枝健診センター 健診検査課 主任 寺尾 真由美

令和7年度「血液・生化学検査研修会」は検査に影響する問題・検査室を取り巻く問題というテーマで、試薬メーカーの担当者による講義と東條尚子先生による講演、各支部による人材育成に対する取組み及びグループ討論が行われました。基本に立ち返れたことや今後の課題が明確となりとても有意義でした。

検査に影響する問題ではXQC (sysmex) の仕組みについてや、検査のピットホールに関するセミナーが行われました。集計結果や結果値に対する解釈、誤登録や異常値(エラー)への対応は仕組みや測定原理をまずは理解しなければいけないと改めて強く感じました。また、よりよい精度管理業務を行う為に様々な機能を活用し集計結果を考察すること、異常なパターンの結果値に迅速に対応する為に症例集や解析マニュアルを確認し理解することが一番の課題となりました。

東條尚子先生による教育講演では採血ロボットの話が印象的でした。AI技術の進歩により業務負担の軽減もありますが、人とのコミュニケーションや異常パターンへの対応等まだまだ課題はありそうです。今後も臨床検査技師として必要とされる業務においてはきちんと勉強し、チームとしての役割を果たしていかなければと感じました。

人材育成やグループ討論では各支部様々な体制であることが伺えましたが、共通した悩みもありとても共感できました。各支部の意見を参考に、今後の業務に生かしたいです。

ありがとうございました。



公益財団法人 高知県総合保健協会 検査業務課 竹崎 悠希

私は、2026年1月29日、30日に開催された「血液・生化学研修会」に初めて参加させていただきました。研修会では、各メーカーの方々の話を聞くことや、ほかの支部の方と交流することができ、大変貴重な経験となりました。

血液・生化学検査のセミナーでは、測定原理やデータの見方、ピットホールが生じた際の対応についてお話をいただきました。反応タイムコースや血液検査のヒストグラムは正確な結果がでているかの重要な指標になるので、見方や異常パターンについて説明していただき、大変勉強になりました。

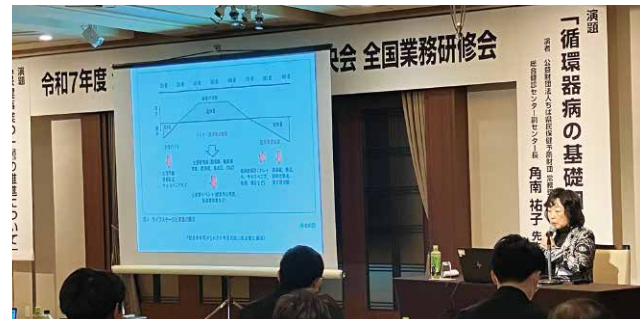
2日目の東條尚子先生のご講演では、健診業務での検体検査室における臨床検査技師の役割についてお話をいただきました。その中でも、AIではなく、臨床検査技師にしかできないことがあるという点、最も印象に残りました。AIが普及する中でも、検査値が正しくでているか判断することは、臨床検査技師の重要な役割です。まだ、私にはその判断能力が十分ではありませんが、研修会で学んだことを活かし、成長していきたいと思っています。



討論会では1グループ5人ずつに分かれ、各施設のシステムや検査におけるトラブルについて話し合いました。私はまだ、入職2年目ということもあり、話し合いについていけるか不安を感じておりました。しかし、司会やほかの方が積極的に質問や意見をわかりやすく述べてくださったおかげで、異常検体が出た時の対応やシステムに関する事項について理解を深めることができました。

今回の研修会で学んだことを、今後の業務に役立て、検査技術の向上に努めてまいります。

令和7年度 全国業務研修会を開催



本会は、令和8年2月12日(木)、13日(金)に、千葉県浦安市「浦安ブライTONホテル東京ベイ」において、千葉県支部(公益財団法人ちば県民保健予防財団)との共催により令和7年度全国業務研修会を開催しました。

同研修会には、本会の32支部合計92名が参加し、5名の中央会業務研修専門委員の協力のもと1日目は、職域健診、地域健診、学校検診、施設健診の4分科会に分かれてグループディスカッションが行われ、2日目は、千葉県支部常務理事兼総合健診センター副センター長、県庁健康管理クリニック長の角南祐子先生による「循環器病の基礎知識」の講演と、全国健康保健協会本部保健部保健企画グループグループ長併任システム部IT戦略推進室長の園川太郎先生による「保健事業の一層の推進について」の講演が行われました。

業務研修会に参加された方々からの感想を寄稿いただきましたので、ご紹介いたします。

公益財団法人 埼玉県健康づくり事業団 業務調整部 渉外課 吉田 奈生

私は、今回浦安市で開催された令和7年度全国業務研修会に参加しました。施設健診分科会では、4つのグループに分かれて、他支部の方々と活発に情報交換をしました。その中で、予約から結果までのDX化と受診者確保対策が印象に残りました。

まず、予約から結果までのDX化について、各支部の導入状況を確認できました。web問診を導入している支部の中には、70歳以上は紙の問診票を使用している支部があり、高齢の受診者に寄り添った対応をされていて、受診者目線に立つことの大切さを改めて感じました。

次に、受診者確保対策について、他支部では人間ドック受診者にも受診勧奨をしているところが多くありました。自支部では施設内ドック健診の対策が不十分であると感じるので、今回の研修で得た情報を参考に、対策を検討していきたいです。また、受診勧奨後もやりっぱなしにせず申込数を把握し、対応していくことが重要だと学びました。

その後の意見交換会では、分科会で他のグループだった方々と情報交換や悩みを共有することができました。

この度は、貴重な研修参加の機会をいただきありがとうございました。他支部の健診実施方法やDX導入状況を知ることができ、とても充実した2日間になりました。ここで得たことを自支部に持ち帰って、業務の効率化やサービスの向上に繋げていきたいと思っています。

医療法人橘甲会 大阪予防医学健診センター 常務理事 兼 総務部長 仲松 康太

令和8年度全国業務研修会に参加し、各支部の現状や課題、取り組みについて直接意見交換ができたことは、非常に有意義な機会であったと感じております。今回の参加は、次回大阪開催を見据えた視察の意味合いもあり、特定の分科会に限らず、会議全体の運営や雰囲気、参加者同士の関係性といった点を意識しながら拝見いたしました。

分科会では、施設健診の運営体制や受診者確保、DX化の進捗など、各支部ごとに異なる環境の中で創意工夫がなされていることが印象的でした。特に、受診者数や運営規模が大きく異なる中でも、



それぞれが「選ばれる健診」を意識し、付加価値の向上や継続利用の促進に取り組んでいる点は共通しており、今後の事業運営においても重要な視点であると感じました。

また、DX化については予約・問診の分野で一

定の進展が見られる一方で、全体最適にはまだ課題が残っているという認識も共有されており、業界全体としての発展余地を感じました。こうした課題認識を各支部が率直に共有できる点こそ、本研修会の大きな価値であると考えます。

そのような中で、千葉県の藤澤理事長が懇親会の席で仰っていた「この会議は人材育成である」という言葉が非常に印象に残っております。現在はAIやデジタル技術の進展により、業務の効率化が急速に進む時代ではありますが、だからこそ人と人が直接顔を合わせ、同じ場で議論し、価値観や課題を共有することの重要性はむしろ高まっていると感じました。営業・渉外といった対人業務においては、数値や仕組みだけでは補えない「信頼」や「熱量」といったエモーショナルな要素が不可欠であり、本研修会はまだにその部分を育む場であると実感いたしました。

次回は大阪府支部が開催を担う立場となります。今回の視察を通じて得た運営面での知見や、各支部の工夫・課題を踏まえ、参加者同士がより活発に意見交換できる場を設計していきたいと考えております。大阪という土地の持つ開放的で親しみやすい雰囲気を活かし、形式にとどまらず、本音で語り合える研修会となるよう尽力してまいります。

本研修会で得た学びを自支部の運営に還元するとともに、次回開催に向けた準備を着実に進め、より実りある機会を創出できるよう努めてまいります。

医療法人橘甲会 大阪予防医学健診センター 事業部 業務担当次長 兼 業務課長 田中 規之

千葉県にて開催された「令和7年度全国業務研修会」に参加し、1日目の分科会では職域健診に出席いたしました。事業収益確保、業務効率化と顧客サービス向上、人材育成・確保などをテーマに活発なグループ討議が行われました。各支部それぞれ地域性や規模、体制は異なるものの、現場レベルでは共通する課題が多いことを改めて実感し、率直に共有できたことは大きな収穫でした。若い世代の参加も目立ち、営業・渉外部門ならではのエネルギーにあふれ、分科会全体が非常に活気ある場であったと感じております。来年度からは協会けんぽドックの開始やDX化の推進など、健診業界はさらなる変化を迎えます。私たち渉外・営業部門が各支部のエンジンとなり、現場を牽引していく決意を新たにいたしました。次回は大阪府支部が担当し、あべのハルカスにて開催予定です。大阪らしい熱気と親しみやすさの中で、支部の垣根を越え本音で語り合える実りある研修会を実現したいと存じます。



令和7年度 保健指導研修会を開催



本会は、令和8年2月19日(木)、20日(金)に、東京都新宿区市谷砂土原町「ルーテル市ヶ谷センター会議室」において、令和7年度保健指導学研修会を開催しました。

同研修会には、本会の19支部29名が参加し、4名の中央会保健指導研修専門委員の協力のもと1日目は東京都支部 山本絵莉保健師、群馬県支部 牛込有子保健師による事例発表が行われた後、浜松医科大学医学部看護学科地域看護学講座教授 渡井いずみ先生による「第4期特定保健指導における成果の見える化」についての講演が行われました。2日目は業務経験年数別のグループに分かれての討論と全体討論が行われました。

保健指導研修会に参加された方々からの感想を寄稿いただきましたので、ご紹介いたします。

公益財団法人 福島県保健衛生協会 医療技術管理課 安齊 菜穂子

本研修会では、特定保健指導に関する事例発表、全体討論、講義およびグループワークが実施されました。各支部の取り組みを通じて、現場ごとの運用方法や支援の工夫を知ることができ、自施設における支援体制を見直す機会となりました。特に、健診当日の保健指導では、待ち時間の有効活用や健診動線を踏まえた支援方法が紹介され、実践への導入を検討すべき内容でした。また、ICTを活用した支援システム導入支部では、支援記録の一元管理や事務作業の効率化が進められており、業務負担軽減と支援の質向上が期待できると感じました。自施設においても同様のシステム導入が予定されていることから、事例を参考に効果検証や運用上の課題を踏まえた活用を進めていきたいと考えています。

渡井先生の講義では、第4期特定保健指導のポイントおよびエビデンスに基づく支援について学び、セルフモニタリングの有効性や対象者の特性に応じた個別化支援の重要性を再認識しました。これらの内容は、実践に活かしやすく、組織内で共有することで保健指導の質向上につながると考えます。

さらに、ICTやAIの活用が進む中でも、対象者の心理面や生活背景を踏まえた個別支援は保健師に求められる重要な役割だと感じています。今後は、本研修で得られた知見を活かし、特定保健指導にとどまらず、企業や地域全体の健康づくりにもつなげていきたいです。

公益財団法人 岡山県健康づくり財団 保健部 検診一課 菅形 光代

岡山県支部は平成18年度に支部機能を一旦離れ、令和7年度に復帰しました。今回初めて保健指導研修会に参加させていただきました。

した。特定保健指導は第4期の2年目を終わりますが、当施設では日々問題が山積の状況です。

web面接について、少しずつ対象者から要望の声が上がるようになり、本格的に導入を検討しています。グループワークや懇親会で、各支部が実際に使用している機器やソフト、注意点(本人確認の方法や事前に周知しておくべきこと)など詳しく伺うことができ、大変ありがたかったです。

また、健診現場での当日保健指導にもzoomを取り入れられている支部のお話や、現場での階層化の流れで工夫していること、保健指導ソフトでのメール支援など、自分たちだけでは思いつかないような事例が多くあり、目から鱗でした。他支部の実施状況を伺うことができ、全国に同じように頑張っている仲間がいるのだと実感し、大変心強く感じました。

講義は制度の成り立ちから現場の状況まで細やかに把握されている渡井先生のお話で、大変勉強になりました。

中央会事務局の皆様、研修委員の皆様、このような素晴らしい会を設けていただきましてありがとうございました。次年度から、ぜひ継続して参加させていただきたいと思います。



第59回 全国予防医学技術研究会を開催

本会は、令和8年3月5日(木)、6日(金)に、山口県山口市「かめ福オンプレイス山口」において、山口県支部(公益財団法人山口県予防保健協会)との共催により第59回全国予防医学技術研究会を開催しました。

開会式では、山口県支部 加藤智栄理事長、本会 櫻林郁之介理事長の挨拶の後、令和7年度全国予防医学技術研究会優秀賞(児玉賞)の授賞理由説明を、本会 東條尚子技術委員長が行い、表彰を香川県支部 山地美佳氏および栃木県支部 小澤 悠氏の2名に行いました。

また、特別講演として医療法人なわたくしクリニック院長の縄田修吾先生から、「みんなで防ごう 子宮頸がん」のタイトルでお話しされました。

同研究会では、本会を含む24支部が62題の研究発表を行い、合計200名の方の参加がありました。

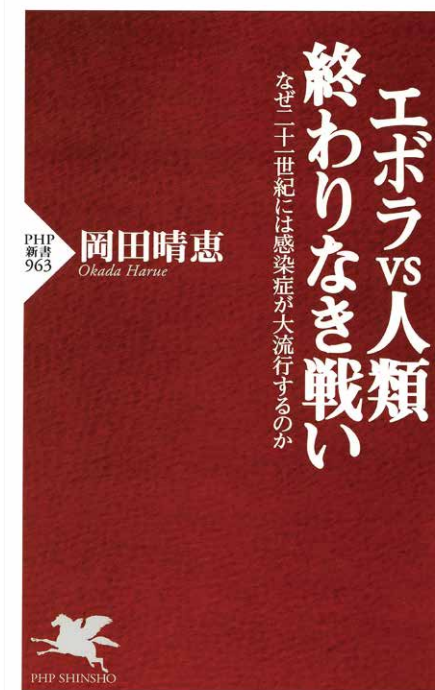
さらに、本会支部の技術職員を対象に技術運営会議も3月5日に開催し、「コメディカルの事務業務が楽になるデジタル技術の活用」と題して、全体討論が行われました。

連載
47

～ 病と癒しの人間史 ～

WHO エボラ出血熱 「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態」を宣言

白鷗大学教授 岡田 晴恵

PHP 新書
岡田晴恵 著

最近、耳目にするのは「麻疹」「ハンタウイルス」「エボラウイルス熱」でしょうか。5月17日、WHOはアフリカ・コンゴ民主共和国で広がるエボラ出血熱について、世界全体で警戒が必要な「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態」を宣言しました。

エボラウイルス感染症は、感染者の体液(血液、唾液、汗、尿、便、嘔吐物など)や感染動物(特にコウモリや霊長類)との接触を通じて感染します。

現在、コンゴからウガンダの首都カンパラで感染確定者が報告され、国境を越えた拡大が起っています。コンゴ民主共和国ではすでに確認できているだけで、死者は100人を超え、アメリカ人医師1人が感染し、ドイツに移送されて治療を受けています。

しかし、実態把握は困難で、これを超えた深刻な流行があることが十分に懸念されます。WHOは、現地は封じ込め対策を上回るペースで拡大し、破滅的な臨界点に近づいていると、警告しています。

コンゴはこの数十年間、紛争が続き、治安の悪化は国際支援を困難にし、流行地はヘマ族とレンドゥ族の民兵組織の戦いで数百万人の難民を出しています。多くの人々が医療や生活インフラが破壊され、劣悪な難民キャンプで過密状態におかれて生活しています。この地にウイルスが入り込んでいるのです。また、エボラは悪霊、魔術と信じ、政府の陰謀説までもが現地では唱えられています。このような状況下で、エボラの封じ込めができるのか? 2014年のアフリカ三国での大流行以上の事態に発展してしまうのか? が非常に危惧されます。

そもそもエボラウイルス感染症(日本の感染症法ではエボラ出血熱)は、アフリカの密林地帯の風土病でした。そのエボラが、西アフリカ三国の首都を含む都市で2013年12月から2015年10月までの長期間に亘って、過去の流行とは桁違いの感染者と死亡者(11,313人死亡、致死率40%エボラ・ザイル株)を出しました。当時も「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態」宣言が出されたのです。僻村から都市までのハイウェイが整備され、潜伏期間2-21日(多くは7-10日)に感染者が移動し、都市の周辺のスラム街で拡大、首都での大流行のきっかけとなったのです。首都には国際空港があるので、首都での大流行に世界各国はエボラの飛び火に震撼したのです。その後、このエボラ・ザイル株にはワクチンがつくれ、収束に向かいました。開発やグローバル化で、「風土病を疫病に変貌させる」背景が出来上がっているのです。

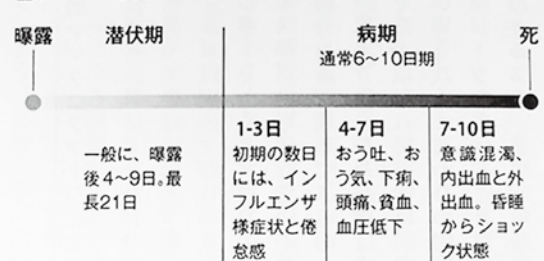
コンゴはそもそもエボラの発生がある国です。しかし、通常は短期間で数十人の被害で収束していました。しかし、今回の発源地のイトゥリ州は金の産出地で莫大な利権に争いが絶えず、ヘマ族とレンドゥ族との関係は2017年以降に著しく悪化しています。一方、トランプ政権下ではWHO脱退、USAID(アメリカ合衆国国際開発庁)も事実上解体されています。一番の支援国を失って、国際支援医療の現場は困難を極めてもいるのです。

一方、治療では光も見えてきました。今回のエボラ・ブンディギョ株は、ワクチンもなく、治療も困難とされていました。しかし、ドイツに移送された患者は、エボラウイルスに共通した抗体製剤と、新型コロナウイルス感染症の治療に使用される抗ウイルス薬「レムデシビル」の併用療法により、患者の血中ウイルス量の値が約1週間で急速に減少したと発表されました(5月28日)。

日本には来ないウイルスと学生時代に習った風土病ウイルスの動向も、注視していかなければならない時代です。

エボラウイルス感染者の症状の進行

エボラウイルスに感染すると、インフルエンザ様症状、内出血と外出血が生じ、死にいたるケースが多い。



出典: Dr. Nahid Bhadelia M. D., M.A., Associate Hospital Epidemiologist,
Boston Medical Center Director of Infection Control, National Emerging
Infectious Disease Laboratories, Boston University

エボラ出血熱 症状進行表